

2018年度(第4回)

日本セラミックス協会フェロー表彰

2010年の公益社団法人への移行後、本会は中期経営計画を策定し、その中で「表彰制度の在り方の見直し」を掲げ、表彰制度検討委員会を設置して検討を進めて参りました。その結果、協会創立125周年である2015年から、新たに「日本セラミックス協会フェロー表彰」制度を導入しております。

本フェロー表彰は、本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた本会個人会員を本会として称え、日本セラミックス協会フェロー(英語名称: CerSJ Fellow)の称号を授与することで、本会を代表するに相応しい会員としての活動を続けていただくとともに、本表彰により会員の本会活動に対する参加意欲の増大を促し、セラミックス分野の更なる発展を図ることを目的としています。

フェロー表彰候補者選考委員会にて慎重な審議を行い、受賞候補者として次の19名の方が理事会に推薦され、2019年1月23日の理事会で最終的に受賞者として決定いたしました。ここに各受賞者のフェロー表彰推薦理由を紹介いたします。

なお、表彰式は、6月7日(金)東京(霞が関ビル内 東海大学校友会館)において開催の第94回定時総会後に行われます。

受賞者一覧

(19名 氏名五十音順、所属は受賞時点のもの)

石垣 隆正	法政大学	多々見純一	横浜国立大学
神谷 利夫	東京工業大学	辰巳砂昌弘	大阪府立大学
木枝 暢夫	湘南工科大学	田中 功	山梨大学
黒田 一幸	早稲田大学	平尾喜代司	産業技術総合研究所
櫻井 修	東京工業大学	藤原 巧	東北大学
佐々 正	佐々技術士事務所	三浦 嘉也	岡山大学
島森 融	元・日本特殊陶業(株)	安盛 敦雄	東京理科大学
鈴木 久男	静岡大学	山下 仁大	東京医科歯科大学
鈴木 義和	筑波大学	若井 史博	東京工業大学
武井 貴弘	山梨大学		

2018年度フェロー候補者選考委員会 委員長：牧島亮男、委員：安田榮一、新原皓一、岡田 清、河本邦仁、吉川信一
※本年4月号後付に2019年度フェロー候補者推薦募集要項を掲載しております。



いしがき たかまさ
石垣 隆正氏

石垣隆正氏は、気相法、液相法を用いて種々のナノ粒子セラミックスを創製した。特に気相プラズマ合成法では、製造プロセスの高度化により機能性発現に重要な化学組成、結晶性、生成相等を精密制御して、セラミックスナノ粒子の高性能化および新機能の発現を図り、セラミックス基礎科学を進展させた。本協会においては、理事、基礎科学部会長、行事企画委員長を務め、協会の活動に貢献してきた。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1984年東京大学大学院工学系研究科修士(工学博士)。1985年科学技術庁無機材料研究所(現、物質・材料研究機構)入所。2003年同研究機構グループリーダー、2009年法政大学生命科学部教授。



かみやま としお
神谷 利夫氏

神谷利夫氏は、早くから計算材料科学をセラミックスの研究にとりいれるとともに、初学者向け教室を開催する等、普及に努めてきた。顕著な業績として、現在の薄型ディスプレイや大型有機EL TVに実用化されているアモルファス酸化物半導体薄膜トランジスタが挙げられるが、計算科学と先端解析技術を組み合わせることにより、弱結合酸素や不純物水素等が酸化物半導体デバイスの動作特性・安定性に重要な影響を与えることを見いだすとともに、それらの知見から最適成膜条件の指針を提案する等の活動を通じ、酸化物半導

体の実用化に大きな貢献をした。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展と産業化に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1991年3月東京工業大学無機材料工学専攻修士課程中退、同年4月東京工業大学工学部助手、1996年12月博士(工学)。2010年8月東京工業大学応用セラミックス研究所教授、2017年4月東京工業大学フロンティア材料研究所 所長。



きえだ のぶお
木枝 暢夫氏

木枝暢夫氏は、永年にわたり本協会行事企画委員会、教育委員会、基礎科学部会、関東支部の委員・幹事として、技術者の教育と若手研究者・教員の育成が協会の社会的ミッションの重要な柱との認識に基づき、関連する各種協会活動・行事の提案企画から運営実務までさまざまな立場で意欲的に取り組み、それぞれに成果を上げてきた。

績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1984年3月東京工業大学大学院理工学研究科無機材料工学専攻博士後期課程中退。1984年4月東京工業大学工学部助手、1993年1月湘南工科大学工学部助教授、2003年同大学教授。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業



くろだ かずゆき
黒田 一幸氏

黒田一幸氏は、ソフト化学を活用した精密物質設計に基づくセラミックス合成に貢献した。シリカ・ケイ酸塩系材料の合成研究、特にシリカメソ多孔体の発見と展開は世界的に波及効果を及ぼしている。同氏はセラミックス誌編集委員、論文誌編集委員長、理事、副会長として協会の発展に貢献した。

フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1979年早稲田大学大学院理工学研究科博士課程修了。同年早稲田大学理工学部助手、専任講師、助教授を経て1989年教授、2009年同理工学術院教授(改組)。2016～2017年日本セラミックス協会副会長。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会



さくらい おさむ
櫻井 修氏

櫻井 修氏はセラミックス教育の分野でさまざまな活躍をされた。大学では学生の主体性を重視した新しい「創造性育成型実験」の開発を行い、教育委員会や出版委員会、あるいは関東支部の活動を通してその普及に努めた。協会活動の中で中高の理科教員と連携し、高校でも実施可能な実験を通じてセラミックスの啓蒙を行っている。また、益子の陶芸家と高校・大学生との交流の橋渡しを行っている。

通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1974年東海大学卒業。1975年10月東京工業大学技官/助手、2007年8月准教授、2015年3月退職。2000～2014年日本セラミックス協会教育委員会委員、2012～2013年同会委員長、教育理事。

以上、同氏は本会における継続的な活動を



さっさ ただし
佐々 正氏

佐々 正氏は長年にわたり、エンジニアリングセラミックスの評価技術、応用技術、特にガスタービンへの適用に関する研究開発を推進し、この分野の発展に貢献した。また、本会において、構造材料部会長、行事企画委員長、運営企画委員長、総務理事、監事を務めた。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1972年東京大学大学院博士課程修了。同年東京大学助手、1976年石川島播磨重工業(株)入社、2002年同社技監、2004年科学技術振興機構シニアフェロー、2014年佐々技術士事務所。



しまもり とおる
島森 融氏

島森 融氏はセラミックガスタービン部材、天然ガスを改質し水素を生成分離する水素製造モジュール、マイクロチューブセルを用いた固体酸化物形燃料電池、ナトリウム・硫黄電池用ベータアルミナ電解質管の開発等に従事し、セラミックスの諸特性を画期的に向上させるとともに、接合やコーティング等において新規プロセスを開発した。また、本協会では協会誌編集委員長、特命担当理事、協会賞選考委員、東海支部副支部長を務め、第72

回功労賞を受賞した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1975年東京工業大学工学部無機材料工学科卒業、1977年同大学大学院化学工学専攻修士課程修了。同年日本特殊陶業(株)入社、2008年総合研究所企画部長、2009年技術開発本部開発企画部長、博士(工学)。



すずき ひさお
鈴木 久男氏

鈴木久男氏は、金属アルコキシドの反応制御による機能性薄膜やナノ粒子の創製に関する研究を通じてセラミックスの学術と産業に貢献してきた。さらに、東海支部の若手セラミスト懇話会を発足させたり、関東支部・支部長や論文誌編集委員長を通じて日本セラミックス協会の発展に寄与してきた。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会

フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1982年3月名古屋大学大学院修士課程修了。同年4月豊田工業大学助手、1988年12月東京工業大学博士取得、1991年10月豊田工業大学助教授、1994年3月静岡大学助教授、2004年4月同大学教授。



すずき よしかず
鈴木 義和氏

鈴木義和氏は、熱分解反応焼結法や水熱合成法を駆使することで、微構造が高度に制御されたさまざまな多孔質セラミックスの低環境負荷合成に成功している。また、これらの多孔質セラミックスを排ガス・水質浄化フィルター等の環境応用、さらに湿式太陽電池・スーパーキャパシター等のエネルギー応用に広く展開し顕著な成果を収めている。また、本協会においては、協会誌編集委員長(理事)、論文誌副編集委員長、出版委員会主査等を務

め、協会の発展に尽力している。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1998年3月大阪大学工学研究科物質化学専攻修了、博士(工学)。同年4月工業技術院名古屋工業技術研究所研究員、2003年5月京都大学エネルギー理工学研究所助手、2011年3月筑波大学数理解物質系准教授。



たけい たかひろ
武井 貴弘氏

武井貴弘氏は、セラミックス関連層状化合物やナノ多孔体の空間を利用し、有機分子・イオンや金属ナノ粒子の複合化により、イオン交換剤、吸着剤、電気化学キャパシタや光触媒等の環境・エネルギー問題改善に資するセラミックス系複合体等の研究推進を行ってきた。また本協会においては、資源環境関連材料部会幹事、基礎科学部会関東幹事、行事企画委員会年会小委員会主査、標準化委員会副委員長、男女共同参画委員、JCSJ編集委員

を務め、協会の活動に貢献してきた。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1995年東京工業大学工学部卒業、1997年同大学院修士課程修了、2000年同博士課程修了。同年山梨大学助手、2008年同大学准教授、2013年同大学教授、博士(工学)。



た た み じゅんいち
多々見 純一氏

多々見純一氏は、セラミックスの機械的特性の本質解明と信頼性向上および粉体プロセスの高度化を両輪として研究を進め、学術・研究を展開させるとともに、特許取得や標準化を通してセラミックス産業の発展にも尽力している。また、本協会ではエンジニアリングセラミックス部会幹事、行事企画委員会年会小委員会主査、セラミックス大学講師、標準化委員会委員長、秋季シンポジウムオーガナイザー等を務め、協会の発展に貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1997年3月東京工業大学大学院理工学研究科無機材料工学専攻博士課程修了。1997年4月日本学術振興会特別研究員(PD)、同年12月横浜国立大学助手、2002年12月同助教授、2007年4月同准教授、2012年4月同教授。



た つ み さ ち ろ
辰巳砂 昌弘氏

辰巳砂昌弘氏は、電解液に匹敵する高い導電率を有し、固体界面構築が容易な新規な無機ガラス系固体電解質材料を数多く創出してきた。また、創製した固体電解質材料を用いた全固体二次電池を試作し、イオニクスデバイスにおける全固体化の道を切り開いた。本協会においては、理事、関西支部長等を務め、協会活動に貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1978年大阪大学卒業、1980年同大学大学院工学研究科博士前期課程修了。同年大阪府立大学工学部助手、1995年同大学助教授、1996年同大学教授、2015年同大学工学研究科長、2019年同大学長、工学博士。



た な か い さ お
田中 功氏

田中 功氏は、長年にわたって溶融法による機能性酸化物の単結晶を育成し、高温超伝導体や圧電体等、機能性酸化物の機構解明や新機能発現によりセラミックスの基礎科学の発展に貢献している。本協会においては、教育委員長、理事等の役職を務めた。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1980年3月山梨大学工学部卒業、1982年3月同大学院工学研究科修士課程修了。同年4月山梨大学工学部助手、1993年7月同大学助教授、2002年12月同大学教授、博士(工学)。



ひ ら お き ゃ う し
平尾 喜代司氏

平尾喜代司氏は長年にわたって窒化ケイ素セラミックスのプロセス、微細構造、特性の関係について系統的な研究を行ってきた。その知見に基づき、粒子配向による高強度と高靱性の同時達成、固溶酸素量の低減による高熱伝導化に成功した。同氏のグループで開発した高靱性・高熱伝導窒化ケイ素はパワーエレクトロニクス用の次世代放熱基板として大きな期待が寄せられている。本協会においては、学術論文誌編集委員、東海支部幹事等を務め、また、2006年に学術賞を受賞した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1982年長岡技術科学大学大学院修士課程材料開発工学専攻修了。同年鳴海製陶(株)入社、1991年名古屋工業技術研究所入所、産業技術総合研究所研究チーム長、総括研究主幹等を経て、2018年より同研究所招聘研究員、工学博士。



ふ じ わ ら た く み
藤原 巧氏

藤原 巧氏は、結晶のように自在に光を操るガラスファイバという新しいコンセプトを提唱し、ガラスの持つ優れた特徴(透明性と賦形成)と結晶固有の光制御性を併せ持つ光材料・素子の創製を進めてきた。産学連携を活用し、光強度減衰や波長変換等、世界に先駆けて光操作性ファイバの開発に成功している。以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェ

ロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1982年筑波大学卒業、1984年同大学大学院修了。同年住友金属鉱山、1991年フロリダ大学、1994年シドニー大学、1995年豊田工業大学、2000年長岡技術科学大学助教授、2006年東北大学教授。



みうら よしなり
三浦 嘉也氏

三浦嘉也氏は、電気化学手法とX線光電子分光法でガラス中の酸化還元挙動・電気分解反応の解明を行うとともにガラスの酸塩基特性を定量的かつ系統的に評価した。これらの成果はガラス製造技術分野およびガラス材料科学の発展に貢献するものである。本協会では学術論文誌編集委員、理事、中国四国支部長等を務めた。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業

績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1966年岡山大学工学部卒業。同年岡山大学工学部教務員、1973年同大学助手、1981年同大学助教授、1986年同大学教授、1994年岡山大学環境理工学部教授、2007年岡山大学名誉教授、2007～16年滋賀県立大学客員教授。工学博士(京都大学)。



やすもり あつお
安盛 敦雄氏

安盛敦雄氏は、種々のプロセスを用いた高機能性酸化ガラス、複合体の作製および物性評価に関する研究を進め、セラミックス研究の発展に多くの貢献を成した。また、運営委員長、行事企画委員長、教育委員長、広報委員長、資源環境関連材料部会長等を務め、本協会の活動に大きく貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会

フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1983年東京工業大学工学部卒業、1985年同大学大学院理工学研究科博士課程中退。同年東京工業大学助手、1993年同大学助教授、2002年東京理科大学助教授、2004年同大学教授。工学博士。



やました きみひろ
山下 仁大氏

山下仁大氏は電子および生体材料を中心とした機能性セラミックスの開発と応用に関し長年貢献してきた。特にバイオセラミックスのイオン半導電性に着目してセラミックエレクトレットに関して世界に先駆け多大の成果を上げてきた。また、本協会においては代表理事(副会長)、生体関連材料部会長、行事企画委員長および常任理事等の役職を務めた。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業

績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1977年東京大学工学部卒業、1982年同大学大学院修了(工学博士)。1982～1984年McMaster大学博士研究員、1984～1997年東京都立大学工学部助手、講師、助教授、1997～2019年東京医科歯科大学生体材料工学研究所教授、2019年同大学名誉教授、帝京大学客員教授。



わかい ふみひろ
若井 史博氏

若井史博氏はジルコニアの超塑性を世界で最初に発見し、結晶粒微細化により氧化物系、非氧化物系の多くのセラミックスを超塑性化できることを実証した。超塑性を応用した成形加工技術の可能性を示し、我が国ならびに世界各国でセラミックス超塑性が新研究分野として発展することにつながった。また、焼結プロセスを力学的視点から捉える学理の構築を行い、セラミックス技術の基盤となる基礎研究に多大な貢献をした。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1980年京都大学大学院修士課程修了。同年通産省工技院名古屋工業技術試験所入所、1997年東京工業大学応用セラミックス研究所教授、2017年同大学科学技術創成研究院フロンティア材料研究所教授。